

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）復興支援 活動報告書

被災支援ボランティア団体
「おたがいさまプロジェクト」 大竹 修

復興支援ボランティア・ツアーVol.12「神戸から真備へ」が終了しましたので、
下記の通りご報告致します。

記

活動日時	2019年7月21日（日） 6時50分～19時
活動場所	岡山県倉敷市真備町
ボランティア数	22名（内初参加9人,学生12人）
活動内容	1.子ども支援 2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会） 3.写真洗浄
その他	赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」の助成事業です。

1.子ども支援

場所・時間	①岡田仮設住宅	②みその仮設住宅
作業時間	1.5時間（10時30分～12時）	2時間（13時～15時）
ボランティア数	11名	11名
受益対象者数	10名	15名
作業内容	レクリエーション等	
詳細	仮設住宅の集会所にて子供向けレクリエーションを行った。 <活動の成果> 1.ストレスを発散し、子供たちの不安や悲しみを取り除き、生きる強さに昇華させることができた。 2.子どもたちが地域住民と触れ合うことで社会性を伸ばすことが出来た。 3.他人を思いやれる暖かい心を育てた。 4.遊ぶ場所を提供することが出来た。 	

詳細・情報共有等	【より良い地域コミュニティの為に】 大人と子供が交流をし、一緒に楽しめるようなイベントを企画。子供達は親以外の大人と接することで社会を学ぶ事が出来る。 地域活性や、子供達の情操教育支援のためにも、今後も積極的に行っていく。	
----------	---	--

2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会）

場所・時間	①岡田仮設住宅	②みその仮設住宅
作業時間	1.5時間（10時30分～12時）	2時間（13時～15時）
ボランティア数	11名	11名
受益対象者数	約20名	約10名
支援・協力団体	石橋様（みその仮設仲介、物資提供）	
作業内容	見守り活動、サロン活動（足湯・お茶会）	
詳細	①見守り訪問活動 1軒1軒お伺いし、困りごと等の聞き込み調査を行った。 <活動の成果> 1.傾聴を行う事で、悲しみや怒りに寄り添い、精神的安定や寂しさからの解放、孤独死や引きこもりなどの抑制活動を行った。 2.困りごとや頼み事などを支援団体「災害支援ネットワークおかやま」「まびシェア」や倉敷市などに情報提供し、生活改善に役立てることが出来た。  （一軒ずつ訪問活動を行う）  （小さな声も漏らさないよう活動する） ②サロン活動（足湯・お茶会） 被災者のストレス発散や、コミュニティの場として足湯・お茶会を行った。 <活動の成果> 1.被災者同士の良好なコミュニティ形成のサポートが出来た。 2.足湯でリラックスしながら、楽しんでもらい、被災者の悲しみや怒りに寄り添うことが出来た。 3.子どもイベントを同箇所で行い、全世代が楽しみ、会話が出来る場所を提供出来た。 4.聞き取りした内容はHP等に掲載。他団体に報告するなどシェアを行なった。 	

【子どもたちという地域の宝と一緒に。】

子どもたちと大人と一緒にいられる場所を提供。特に岡田仮設は地域の受け入れが大変良く、子供達が集会所に入ってきた瞬間に、ご年配方に笑顔が灯ってくる。

子供達と大人と一緒に笑いあえる空間は地域コミュニティとしては理想なので、今後も積極的にいきたい。



【情報共有】

1. 岡田仮設住宅

①西日本豪雨から1年ということもありニュースなどで取り上げられているので当時のことを思い出しが沈みがちの方が何人かいた。

②最近仮設から自宅に戻る人が増えてきて寂しくなるという意見をいくつか聞き、この時期に心が沈みがちな人が増えているので、引き続き傾聴活動をする必要がある。

2. みその仮設住宅（初）

①イベントを開催してもメンバーが固定していると、世話人の方から聞いた。仮設の世帯数や人の出入り、コミュニティの状態など、同じ仮設に住んでいるが出身の地区も害状況も違い、仲良くなれていないのが現状である。

今後信頼関係を築き上げ、一人でも多くイベントに参加し、良好なコミュニティを形成できるサポートができるよう活動していきたい。

②足が悪い被災者の方が、「際談話会まで行くことはできないが訪問することで気にかけてもらえるんだと感じ、とても励みになる」と私たちを労ってくれた。

3. 写真洗浄

場所	元田集会所
作業時間	約6時間（9時30分～15時30分）
ボランティア数	22名
受益対象者数	約40名
作業内容	写真洗浄
支援・協力団体	「真備洗浄@あらいぐま岡山」様（場所提供・作業指示）

詳細・情報共有等

※写真洗浄とは

泥で汚れた写真を1枚ずつ丁寧に汚れを落とす作業を行う。

汚れた写真はバクテリアが周りから侵食して白くなっていく。放置しておくで見れなくなってくるので、侵攻をとめるために水・エタノール水溶液で洗浄しなくてはならない。

簡単な作業ではあるが、被災者の心に寄り添える大切な活動で、初心者には向いていると言える。

<活動の成果>

- 1.被災者のを守り、生きる喜びを与えることができた。
- 2.バスを利用して大人数での効率の良い活動が出来た。
- 3.活動中や休憩時間などに、ボランティア同士の交流を通して、防災やボランティアの意義を感じてもらった。

【現地のボランティアの方との交流】

作業時に同席した現地ボランティアの方に、当時の話や現在の状況などを説明していただき機会があり、初参加や学生たちにとって有意義な時間となった。これからも無機質な活動ではない心の通ったボランティアを目指したい。



【所感】

西日本豪雨から1年が経ち、今回は真備支所前に建設された石碑にて、黙祷から始める活動となりました。



<思い出す1年前の記憶>

西日本豪雨から1年経ち、メディアが被災地の現状を再報道するようになり、被災者の中には当時のことを思い出し、心が沈むという方が何人もいらっしゃいました。

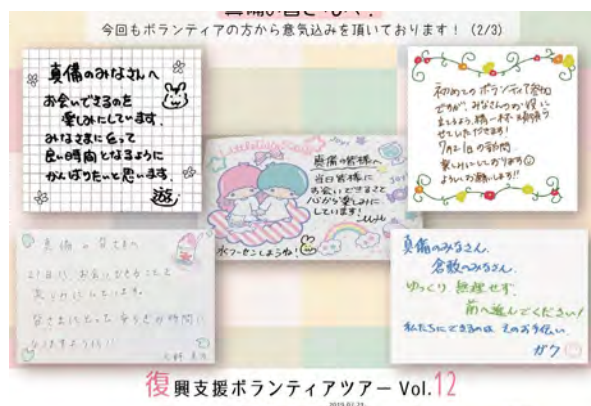
仮設住宅でのイベントが激減している中、ある意味今が一番孤独を感じ、悲しみに暮れている人が、ストレスや怒りの中でお酒に走ったり、最悪の場合孤独地になる場合もあります。今がまさにとても大切な時期かと思います。

当団体も、今以上に SNS で情報を発信していきながら、ひとりの悲しみもこぼすことなく心に寄り添っていきたいと思っています。

<一人でも多くの方にボランティアや防災の意義を>

毎回ボランティア参加者に真備へのメッセージを書いてもらったり、ボランティアが終わった後も真備の方からの感想やメッセージを届けることで、少しでも長く復興支援に関わってもらい、SNSや家族、知人などに情報を発信してもらうよう動いております。

そしてバスの中で、学生メンバーによる、PTSDの解説や慰問ボランティアに対する心構えなどを説明してもらう等、これからを担う学生たちに十分な活動場所を提供できるように心がけていきたいと思っています。



(真備に向けたメッセージ)



(学生メンバーによるPTSDの解説)

最後にこのような機会を頂いた中央共同募金会様、ご協力頂いたあらいぐま岡山様、まびHouse様、つむぎママ様、チョコ様、倉敷市役所、倉敷市社会福祉協議会。そしてボランティアの皆様に、心より感謝をお伝えしたいと思います。

本当に有難うございました。
おたがいさまプロジェクト代表 大竹

【今後の活動について】

8月24日・・・復興支援ボランティアツアーVol.13

9月上旬
第二回写真洗浄会@神戸



【傾聴アンケート】

(岡田仮設住宅：10件 訪問回数5回目)

性別：男・ <u>女</u>	何歳（年代）：38	名
お話内容		
子どもの読書感想文の話。子育ての話。(明日、下の子が1歳になるとのこと)はいはいを繰り返しているが家の床のささくれが気になるため、今は感想・備考 あまり子どもが動かななくても良いかなとおっしゃっていました。		

性別：男・ <u>女</u>	何歳（年代）：60	名前・あだ名（わかれば）
お話内容		
雨が降ると、やはり一昔前のことを思い出して泣き出す。一年前の7月の時は、避難指示が出ていたが、まだ家が被害にあうとは思わず家に居た。水が来たので2Fに逃げ、屋根から脱出してボートに乗った。家は1Fが浸水して4メートル浸かった。まだ自分が被害にあうとは思ってなかった。足湯は初めて参加した。気持ちよかったです。		

性別：男・ <u>女</u>	何歳（年代）：70代	名前・あだ名（わかれば）
お話内容		
仮設住宅での暮らしについてお話をしました。その女性は暮らしほめて満足しているが、やはり金銭的余裕は少ないと言っていました。また若い人が岡田地域にはあまりいないという話を聞きました。		

性別：男・ <u>女</u>	何歳（年代）：70歳代	名前・あだ名（わかれば）
お話内容		
前にお母さん園があり、いつもにぎやかで良い等と今の不満や不安な点よりいい面をみてお過ごして下さる様子を話しました。		
70代位の女性は、9月11日の雨の事の方を気にされ、又岡田も怖い気持ちになったわ、と少し悲しそうに会話の中で言っていました。		

性別： ☒ 男 ☐ 女	何歳（年代）： 1990年代	名前・あだ名（わかれば） 茂 さん
お話内容 ひとりぐらしで、このような集まりがないと、全く人としやべること なくさびしさを感じる。ひたすらテレビ・新聞・雑誌をみまわ 仮設には抽選で入るから、人間関係をつくるのが苦労した。		

性別： ☒ 男 ☐ 女	何歳（年代）： 60代？	名前・あだ名（わかれば） 不明 セミ取った子 おにいさん
お話内容 真備は「金田-耕助」の生れた土地。資料館があるけど案内するところまでいかなかった。 周知は小田郡という場所があるけれど、昔は小田県という名だったと資料館で地図を見れば。 避難時は、周知小学校に1000人くらいいた。新たに来た人も居場所がなくて、他を探しに行った。 陸・中学・高校も元々避難所だったから、浸かってしまったので、その近くの人も周知小へ来た。クラブも敷いて 感想・備考 宿った頃、教室もいっぱいだった。今は1人で仮設にいる。宿後、孫と会うのもたいてい 会うくらい。お一人暮らしに少し疲れるが、お一人暮らしでいると、お一人暮らしでいると、お一人暮らしでいると、お一人暮らしでいると、 周知仮設も今は15世帯くらい。60歳以上の再抽選で、入居する人もいるよ。		

性別： ☒ 男 ☐ 女	何歳（年代）： 70年代？	名前・あだ名（わかれば） 花田 茂 さん
お話内容 家の草、昨年は泥かぶって生えなかったけど、今年は生え生えと出てくる。人間がいない おれといふ（笑）自宅の草、おれは刈っている。寺社仏閣が好きで、京都や奈良 も行った。奈良は西大寺をよく覚えている。西国三十三所も行った。		

性別： 男・ ☒ 女	何歳（年代）：	名前・あだ名（わかれば）
お話内容 足が悪い。おれ訪問した際、談話会まで行くことはできないが、 訪問することで「気にかけてもらえておんだ」と嬉しいとおっしゃっていた。 おれたちへ来ることにより、励みになるといっていた。 水害により、1人カラダが弱くなったといっていた。		

女性、30代? 名前 不明

明日24 30歳 1歳になる子も抱いた22歳でした。

災害の時は、お腹に子がいて、~~22歳~~、7月22日未明に生まれた。

赤ちゃんといるのは避難所ではなく自宅の隣で生活していた。皆に、東家に戻ろうと勧められたが、東家はもう被害を受けていて避難所ではない。そこで、夫の東家も被害があつた。3家族も被災。自宅で生活している。

集会所には、ボランティアスタッフが置いているが、自宅生活者には無用の不満など。被災後の生活は赤ちゃんといるのは変わらない、水の確保も大変。

水道を止めれば、止めた水、汚水が出るので、においもある。

性別: (男) 女	何歳(年代): 70歳代?	名前・あだ名(わかれれば) 花田 希 さん
お話内容		
家の草、昨年は泥かぶって生えなかったけど、今年は生々生々といえてくる。人間がのびのびしている(笑) 自宅の草、少しは刈っている。寺社仏閣が好きで、京都も奈良も行った。奈良は西大寺をよく覚えている。西国三十三所も行った。		

(みその仮設住宅: 11件 訪問回数1回目)

性別: 男 (女)	何歳(年代): 30?	名前・あだ名(わかれれば)
お話内容		
有井地区の地域コミュニティについて話して話をしました。有井地区では現在自主防災組織や自治会など個々にして取り組まれているが、有井地区一帯の防災連携の取組に組織が必要だということも言われていました。また有井地区には上公民館と下公民館と分かれており、この下公民館が、排		
感想・備考		
ほかの自治会にあることから解消されること2" 2"で行なわれてきたことコミュニティ活動を行なう場を作りたければ、土地や建物もなく難しいとの課題を教えた下でした。これらのことを聞いて、住民のつながりは大変重要な役割を担っていることがわかりました。		

性別： 男・女	何歳（年代）：	名前・あだ名（わかれば） <u>戸栗田さん、つんぎやさん</u>
お話内容 <u>7月6日から7月8日までの参拜時間この状況を写真と手記と音で伝えてまいりました。</u> <u>それぞれの家にペーパーやご家族がいて、うまく避難して来た方とできなかった方がいて、</u> <u>元々1主でいて土地に戻る方が多いという事を参拜していってまいりました。</u>		

お話内容
夫婦で仮設住宅に在居中だが、旦那さんが身体に障害を抱えているため
日常生活が大変であるとのこと。災害時はお互い、今より健康体であったことから
無事助かることができたと言いました。心が災害により大きく病んでしまったこともあり、
旦那さんも身体の調子が急速に悪くなってきたとのことでした。

相互いさまプロジェクト

【ボランティアの感想 20件（参加者数22名（回収率90%）】



友人の誘いで、今回参加させて頂いてきました。作業内容を文字で見ると、難しいところと感じてしまい不安でした。しかし、実際に言内してみると、皆様優しく対応し、お話ししてくださり、楽しく安心して活動できました。災害から1年経ち、今、この大雨の被害についての現状、様々な人々のお話を聞く機会はないので、こうして直接南172より経験になったと思います。

写真洗淨 此の如く仮説を以てん腹かく、お言ひとお伺ひすれ
ば此の言ひにくださるべきにたす。写真洗淨は又被災された方
の大切な思い出と守るお利ないが、此にふかたす。写真洗淨の
やり方と孝えんくだした方は、真備のこゝで世間話とし「久の樂
がた」といふよりはとと云ひいたがごとくで喜ばれた。

20代／大学生（初参加）



最初は足湯班だったが、子どもと田舎を23のま
外へ。本来の業務とは違ったが、楽しく遊んだ。

20代／大学生（初参加）



今日初めて災害のボランティアに参加していただき、自分が思っていた以上に
多くのことを知れたと思います。やはりメディアで得られる情報は取捨
選択されているので、現地の人と一緒に活動する中で被災者の方へ
の声を直接聞くことが大切だと感じました。また被災地の方へは
私たちが思っている以上に前向きに将来のことを考えられていて、こ
ろ元気をもらう場面が多く本当に楽しい活動でした。

40代／社会人（初参加）

写真洗浄と仮設住宅でのお茶会
初訪ゆのみでの仮設。お茶会メンバーが戸外へ
出て、知っている地元の方とやり取りして、出てきた。
関係が築けるまで、お茶会メンバーが前へ出て、地元の方へ
出て、お茶会がサポートに回る方が多い。いつかは
地元とは地元に住む時が来ることを、後者が多い。

30代／社会人（初参加）

初めて参加させて頂き、これから積極的にお話を伺う
ことは出来ませんが、年齢の方、主婦の方、お子様達
も逢った方々皆、逆に気遣って、お茶会に遊びに来る時間を
下さり、元気で笑顔を見せ、少しづつは、
大切な物を取り戻したという思いが、強くなり
又何か自分で出来る事、写真洗浄は市内で行われているので、積極的に参加します。

20代／社会人（初参加）

写真洗浄、みその仮設
本日は貴重なお時間とあり、誠にありがとうございました。初めてのボランティア
活動でしたが、周りの皆さんの優しさにより、不安も解消でき、その中
く良い経験になりました。実際に被災者さんからの生の声や想い
を聞くことができたので、考えさせられることが多く、今後多くの人の役
に立てるよう今日の経験を活かしたいと思います。3人たちのニコニコ



20代 / 専門学生

仮設訪問・写真洗浄

私は足湯の係をしました。入浴剤が何か良いかで、話がはずみ、お互い楽しく過ごしました。子どもたちも風船であそんだり、UNOやオセロをして遊べました。写真洗浄では顔なじみの方とおしゃべりをしながら楽しく作業することができました。「また今度、」と言合える方ができてとても嬉しいです。

20代 / 社会人

AM: 岡田仮設 | PM: 写真洗浄

(岡田) 継続したボランティアを行っているため、団体と仮設の方との信頼関係と強く感じた。水風船や足湯どちらも好評で、今後も繋がり続けたいと思った。度々から参加しました。(写真) 完成直前の仕上げ作業だったので、いつもよりは枚数も多くかつ丁寧に書き取りすることができました。以前お会いしたことがあるスズメさんがお母さんの石川出身の御孫さん

30代 / 社会人



慰問 ボランティア (岡田仮設)、写真洗浄

慰問 ボランティアは2度目だが前回と同じ仮設だったので知っている人や子どもが何人か居て、やはり継続していいことだと思った。天気の話題になると何人かの方は「雨が強いとあの日のことを思い出して不安になる」といってあせうが出ていて、またまた傷が残っているのだな、と実感した。

20代 / 大学生

慰問ボランティアは、被災者の方々とお話をし、いかに寄り添えると思います。私も支援もオセロをしたり、UNOをしたり、楽しく過ごせました。写真洗浄は、前回来た時よりも手際よくできたので、とても満足しています。一枚でも多く写真を洗浄するこに力みしました。



20代 / 専門学生

めて岡田の仮設に行き、住民の方同士で和やかに話している姿を見て、改めて人と人とのつながりの大切さを感じました。とんだん仮設から人がいなくなると寂しいことはあるけれど、残っている方々はそういう姿を見ると不安になるし、残っている方々に寄り添うことが大切だと思いました。写真洗浄は何度もしたことがあるけれど、一枚一枚に思い入れを取り戻すことができ、心のケアとして大変であるので、少しでも被災者の手元に戻ればいいなと思いました。



30代／社会人

あつた
 (AM) 岡田仮設にて こび支援、足湯 (PM) 元田集会所にて 写真洗浄。
 岡田小近くの「金田耕田力 資料会館」にも訪れました。映画、ドラマ
 の写真や資料の展示がありました。初めて真備の災害以外の顔
 を見て、少し明瞭さが増えました。
 写真洗浄の中心は、質問のあかきで増えている。県外からと母会
 かいが来ると聞か。1号そこで復旧の見えるまで「まだ」道半ば”
 だっ成る。た

30代／社会人

写真の洗浄、慰問ボランティア
 写真の洗浄では、今日みたいな写真が多く、持主さんの思い出の多くふたつに
 かかっています。慰問活動では、たくさんの子も来、そのお父さんお母さん、おじいさん
 おばあさんと接することができました。子どもたちもはしゃぎ姿を見て、こちらで元気が
 来え。改めてボランティアに来て良かったと感じます。「来月も開催したら、来て
 くん？」と子どもたちに聞くと、皆口をそろえて「また来たっ！」と言ってくれ、
 今回のボランティアメンバー全員が、真備の方々に貢献できてたと、そう思いました。

30代／社会人

今回は昨年の西日本豪雨から1年経つこともあり、被災者の方もよく
 メディアの中で取り上げられるに、お当時の真備の動画や写真をよく見ると
 お、い、て、い、ま、に、ま、ま、か、自、分、が、こ、ん、は、目、に、合、う、は、入、て、は、と、今、で、も
 い、ま、上、げ、る、も、の、も、時、々、あ、る、と、仰、っ、て、い、た、。災害直後は無事で良かったと
 仰っていたが、今は経済的な面などで今後の不安もあると仰っていた。
 そのほかには、せっかく仮設で顔見知りができ、生活にも慣れたのに

